



☆常識とは絶対的な事実かどうかは別として、より多くの人が「それはそうだ」と得心している知識や行動です。当然、常識とかけ離れた言動は批判の対象となり、表舞台からの退場を求められることが少なくありません。その一方、私達は今、改革の中で常識に囚われない発想や取り組みが求められています。さすれば改革とは、非常識な個性を常識として認知させる闘いではないかと思うのですが、皆さんはどう思われますか。☆次号の『標本棚』のテーマは《歩く》です。皆さんにとっての《歩く》をご紹介します。

APEX CLUB

アベックス産業株式会社

'03/11

第17号

『APEX CLUB』

発行 2003年11月1日(通算第17号)
発行所 アベックス産業㈱「APEX CLUB」編集委員会
〒105-0014 東京都港区芝2-23-4
電話 03-3455-6474 FAX 03-3455-6558
メールアドレス <http://www.apex-sangyo.co.jp>
発行人 元木 貢 (編集委員)和田芳武、白坂昭子
山口力広
(事務局)白井良和
制作協力 株式会社オービット

ギャラリー

大阪・生と死を考える会
会長 谷 莊吉
(雅号：蘭葉)

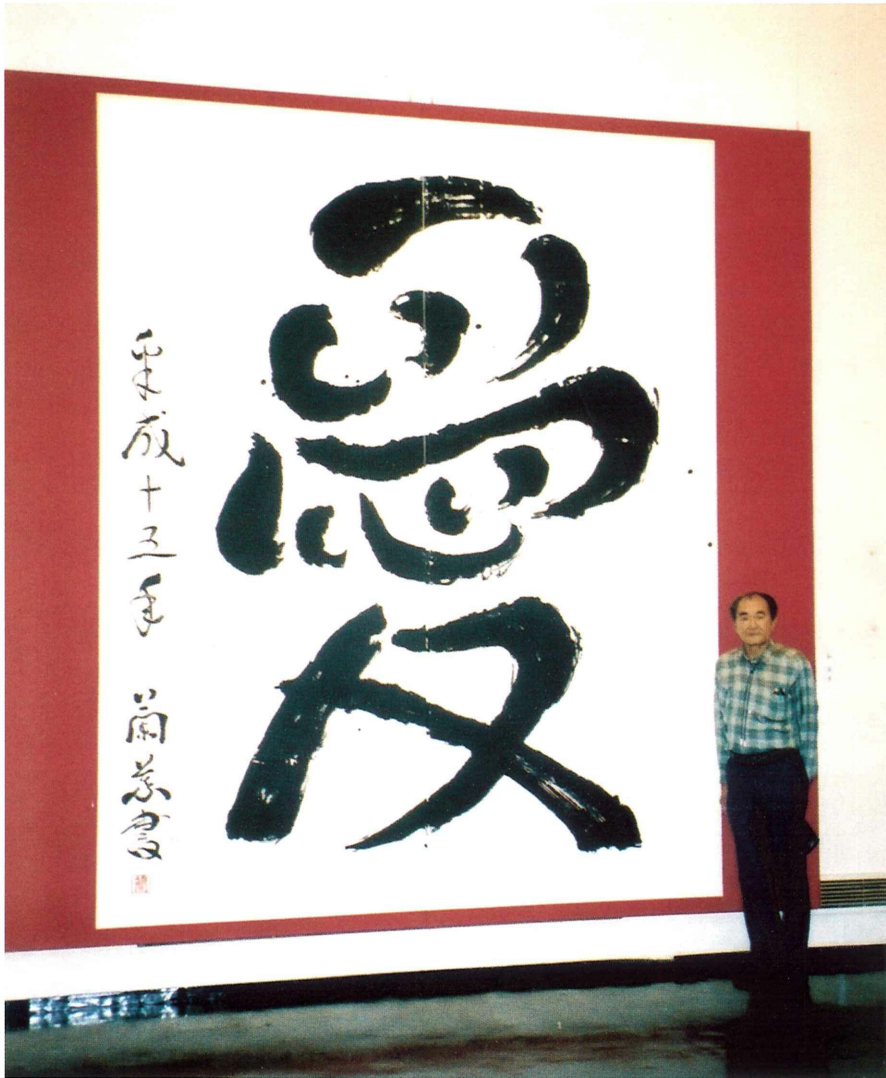
●作者寸言

高校二年の時、一年間、近所のお寺の住職から、「永字八法」という書の手ほどきを受けたことがあったが、その後、五十八歳になるまで「書道」に励むことなど毛頭考えずに過ごして来た。

ある時、横浜シルクセンター地下の「絹」というお店の壁に飾られた「書」に魅せられて、その書家に弟子入りをする事になった。そして、作品の制作に夢中になり、より良き(美しい)作品、詩情が漂う作品、人生の機微を謳歌する作品など、筆と墨と和紙との調合した特殊な作品を作成することに没頭して来た。

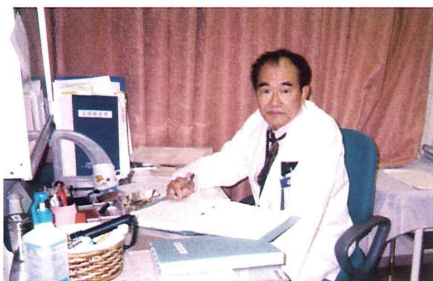
新しい題材に挑戦するのが生き甲斐となっている。芸術への憧れ、美の追求、人生の価値観として、それを大切にしたいと考えている。(所属：鳳心会、騎虎の会)

58歳からの挑戦：書道芸術の美しさ



●プロフィール

一九三一年、神奈川県生まれ。医学博士。横浜市立大学医学部、東京大学大学院博士課程修了。東京大学医学部助教授、金沢医科大学教授、日本厚生団衛生科学研究所所長などを経て、一九九一年より、上尾甦生病院副院長・ホスピス病棟長、一九九四年より横浜甦生病院副院長・ホスピス病棟長、一九九五年より、小松病院(大阪府寝屋川市)院長、二〇〇〇年より、介護老人保険施設・洛西けいゆうの里(京都市)施設長を歴任。現在、はやしやまクリニック(神戸市)名誉院長として外来診療に従事されている他、日本ホスピス在宅ケア研究会顧問、近畿ホスピス在宅ケア研究会会長、大阪・生と死を考える会会長、東京・生と死を考える会顧問に就任し、終末医療の第一線で活躍しておられる。



むし籠

ビールを飲みま蝶

M氏は月に何回か、実家に行つて両親と食事を共にしている。

ある日、ビールを飲みながら食事をしているとき、開放していた窓から蝶が飛び込んできた。最初は台所で舞っていたが、そのうちA氏のコップの縁に止まり、畳んでいた口吻を一杯伸ばして、美味しそうにビールを飲み出した。

そして一分ほどして、勢いよくおしっこをすると、ふらふらと舞い上がって去って行った。

どの程度酔っぱらっていたかは不明だが、ジャノメチョウの仲間のようだった。千鳥足ならぬ千鳥羽根?のチョウの舞いは、この日の食事に格好の話題を提供してくれた。

アベックスの怪談

アベックス本社の階段は、少々傾斜がきつい。そのためか、転ぶ人が多い。

A君は時々よろけていたが、先日、ついに転んでしまった。痛いだけで済んだのはラッキーだった。

B嬢の場合は、かなり激しい転落状態だったようで、向脛・腰・肩・腕など、あちこち痣だらけになったらしい……。「らしい」というのは、背などを気軽に見せて確認してもらえぬ相手がいなかったためである。それにしても、満身総痕とは派手

な転落だが、その時の状況は本人もはっきり覚えていないという。(その方が重傷だ……)

C氏は上りで足を踏み外した。最初は「若い頃柔道をやっていたので、少々、踏み外しても転倒はしていない」と言い張っていた。

しかし、その後、転倒したC氏に「大丈夫ですか?」と声を掛けた人がいたことが判明。強がりCにとっては、転倒の傷よりも、今は心の傷の方が重い。

アベックスの階段は《祟られている》という怪談も生まれつつある。

アベックスの鼠

アベックスの一階倉庫に、時折、ネズミが侵入する。

一度目は、扉が開いている間に、ドブネズミが侵入したらしい。数日後、死体が発見された。倉庫内に置いてあったネズミ駆除用の毒餌を食べたらしい。ドブネズミには毒餌が良く効くことが、実証された。

二度目は、作業現場で捕獲したクマネズミだ。社に持ち帰って処分しようとした時に逃げられたものだ。初めは放置していたが、やがて殺鼠剤の配合に使う餌を食われるなど、被害が出始めたため「面倒だがやるか」と粘着トラップを配置した。

その結果、翌朝には捕獲し一件落着。捕獲して当然と言えば当然だが、専門家としての技術を示すことが出来て、ホッと一安心。メダシ、めでたし!



おじゃま虫

チョウバエ



【プロフィール】チョウバエは、トイレの壁などで見かける三角形の小さなハエです。幼虫は、マンホール内の汚水や排水槽内で成育し、マンホールの蓋の隙間などから出てきます。また、厨房の濡れた床面で発生することもあります。人に直接損害を与えませんが、食物などに止まると不潔ですし、工場における異物混入の原因になり、食堂などで飛んでいると店の評判も下がります。まれに気管支、眼など人体に寄生し、ハエ蛆症を起こすことがあります。

【種類】チョウバエは、ハエ目チョウバエ科に属し、日本では六十種類以上が記録されています。身近ではオオチョウバエとホシチョウバエが見られます。

【駆除】地下マンホール内汚水槽や排水槽に発生する幼虫を駆除します。有機リンやピレスロイドなどの殺虫剤、羽化や脱皮を阻止する昆虫成長抑制剤を投入します。また、生息している成虫を駆除するために、ピレスロイド系樹脂蒸散剤を吊り下げるなどします。根本的な対策として、マンホール内であれば、槽内のスカム除去や清掃を行うこと、厨房であれば、床面を清掃し、乾燥させることが大切です。

虫めがね

☆平成十五年十月二日、創立三十五周年を迎えた同業者の団体「社團法人日本ペストコントロール協会」の第七回全国大会が、三百五十人の参加を得て、大阪で盛大に開催されました。当協会は当社創業者(現在、相談役)の元木三喜男が、昭和四十三年に全国の有志に呼びかけ、厚生省の肝煎りで設立されたものです。

☆協会は創立後、すぐに資格制度を創設し、研修テキストによる従事者研修を推進する一方、毎年六月四日



を「ムシの日」と命名し、全国各地で害虫相談所を開設、市民からの相談に応じてきました。また、図書やスライドの出版など、業界の技術向上、社会的認知の醸成、行政への協力を通じて社会

貢献に尽力してきました。☆大会では、記念式典と講演が行われ、記念式典では、厚生労働大臣、大阪府、大阪市、そして関連団体の財団法人日本環境衛生センター、ビル管理教育センターなどから祝辞をいただきました。

また、講演では、国立感染症研究所昆虫医学部部長の小林陸生先生による「ウエストナイル熱に関するお話」を伺いました。そして、私(元木)が「PCOと感染症」という題で話をさせていただきました。(貢)